

指導医からのメッセージ

～ 当院の内科系初期研修プログラムについて ～

当院は臨床研修病院としての長い歴史の中で根付いた「研修医を育てる」という文化の下、全国の大学から卒業生を受け入れ、数多くの優秀な医師を送り出してまいりました。

診療科は臓器別編成で大学病院並に細分化されており、高度で専門性の高い診療を行っています。多くの施設認定をいただき指導医数も多いのですが、一方でこうした病院の規模や指導医数に比べて研修医の採用人数は少ないため（各学年 12 名）、個々の研修医が経験できる症例数や手技が比較的多いこと、一診療科にほぼ一人ずつ研修医が配属されて研修医一人を複数の上級医が指導する体制が実現できていること、上級医との距離が近くコミュニケーションをとりやすいこと、大学病院と同じ難解な疾患だけではなく Common Disease にも接することができること、内科系プログラムでは内科必修科の他に一般外来（救急科含む）、外科、脳血管内科、産婦人科、小児科、精神神経科、放射線科、麻酔科、地域研修（伊豆病院）と将来に必要な他科を効率よくローテーションしてオールラウンドに研鑽を詰めることが、当院の研修の最大の特徴です。当直においても、内科当直、外科当直、CCU 当直、SCU 当直、ICU 当直、産科当直各 1 名と専門科が揃い、さらに研修医も 2 年目と 1 年目が同時に配置され、屋根瓦式の指導やフィードバックが受けられるように配慮しています。また、院内の図書室で購入している雑誌などが多いので、優れた上級医の指導を受けるだけでなく、最新の文献を参照しつつ勉強できます。例年向上心に溢れた研修医が集まっていますが、皆仲が良く、勉強会や時には誕生会などを自発的に開き、切磋琢磨したり、親睦を深めたりしているようです。

臨床研修を終えた後、引き続き専門研修に残る人が多いことも、当院の研修の質の高さを表しているのではないのでしょうか。

当院の環境は研修医の皆さんの熱意にお応えできるものだと思いますが、さらに充実した研修になるよう、随時ヒアリングを行って研修制度そのものの改善も図っております。私達と一緒に、新しい歴史を創っていきましょう。まずは一度、見学にお越しください。皆さんにお目にかかれるのを楽しみにしております。

プログラム A【内科系】

責任者：仁科 祐子（糖尿病・内分泌内科）

～ 当院での外科系初期研修プログラムについて ～

プログラム B（外科系初期研修プログラム）では、平成 29 年度から 1 年次における外科系診療科の選択可能期間を 1 ヶ月から 2 ヶ月に延長し、さらに自由度の高いプログラムとなりました。各診療科の臨床に触れる機会が豊富になり、将来進む科を選択するための判断材料が増えています。

各科の指導体制については個性があると思いますが、例えばわれわれ外科では、中心静脈カテーテルや腰椎麻酔などの穿刺手技、手術室での皮膚縫合や電気メスを用いた開腹、中心静脈ポート留置など、外科的な手技を積極的に 1 年目のレジデントの先生たちに指導しております。当院で研修しているレジデントの先生たちは、「この手技を修得できた！」「あの病態を理解できた！」と、日々めざましい進歩を重ねています。

ぜひみなさんも、当院での研修御検討ください。お待ちしております。

プログラム B【外科系】

責任者：佐藤 彰一

～ 初期研修医になる皆さんへ ～

研修医の 2 年間は、医師として、そして社会人として非常に大切な時期だと思います。当院は旧関東通信病院時代から臨床研修指定病院として、現在も活躍されている医師を輩出した実績があります。そういった環境のもと、充実した 2 年間の研修期間で学んでいただくよう、わたくしに限らず当院医師は少しでも協力したいと思っております。

プログラム A【内科系】

責任者：松下 国史郎（循環器内科）